

平成25年第1回いわて復興ウォッチャー調査 自由記載集

I 被災者の生活の回復に関する実感

生活の回復度及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載（理由）
回復した	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	やっと公園等の整備に取りかかったこと等。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	約2年が経過し、周囲の人々は普通に以前と変わらない様子で生活しているように見えます。金銭面では厳しい方も多いと思いますが、日々の生活は以前とそんなに変わらなく見えます。
やや回復した	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	仮設住宅での生活にも慣れてきたためか心情的には余裕とまではいかないが安定していると思う。ただ、次のステップ（住宅再建）には進めずにいる状態だと思う。やっと被災エリアの建物の基礎が撤去され始めましたが、長引けば焦りや苛立ちを生み、またストレスになると思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	住宅を建てる人が増えている（建てる準備をする人が増えている）高台移転の整地が進んでいる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	徐々に土地を買い家を建ててきている人が多いですが、仮設の人達は高台への目処も立っていません。買物にはスーパー等にバス、タクシーで行く高齢者が多いです。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	住んでいた地域、家族構成年齢、年収等により格差が生まれてきていて、精神的に病んでいる人が増えている。被災地では、土地が震災前より価格が上昇しており、内陸部と比べて異常な高さになっている。このため、収入の低い若い層は内陸部に流失している。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	商業施設の増加等で雇用の場は広がっているのではないかと思われる。漁業関係も活気付いてきている兆しが見られる。しかし、住宅の再建についてはまだまだ仮設からの移住ははかどらないと思う。また、病院の再建も話が進んでいないのか住民の安心を得るのはまだ先のようなのである。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	自力で土地を購入して新築している人も増えているが、自治体の代替地計画がまだまだ進行しておらず、お年寄りの人達の引きこもりの話を聞くこともある。年配の人は半年、1年とか短い先の事を心配している。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	リフォームできる家屋はリフォームされ、所有者が居住あるいは売却され、そして被災者達が住み始めたように思われます。また、新築の家屋も増えていると思われます。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	我が仮設団地からも自立再建し新たな地での生活を始めた世帯もある（6～7世帯）。残る世帯は移転地も決まった事からこの25年度頑張ればと集会所のお母さんたちの話である。高齢者も多く移転地工事が進み、新しい年（26年）は新しい公営住宅で迎えられるようにと行政は言っている。希望の持てる25年度であってほしい。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	収入面はだいぶ回復しているが、住宅の関係はどちらもと言えませんね。

やや回復した	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	被災を受けた商店街は仮設店舗でほとんど営業を再開している。水産加工場も仮設工場の建設により営業を再開しており、経済の上昇と労働者の雇用の場が確保されてきている。今年は夏祭りも実施され生活は回復に向いてきている。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	仮設住宅・修復住宅、それぞれの生活リズムに安定感が出てきたように思われますが、一過性でなければ良いが心配もあります。公営地内の災害公営住宅の一部着工が始まる。高台移転に関する住宅地申し込みの受付が始まる。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設住宅の住環境が改善されつつある。風除室の増設は大変良かったが、集中豪雨では天井からの雨漏りが数世帯あった。個々に補修をしていただいたが、最近全世帯改修が行われた。「家がほしい」、これが解決されること、これが回復である。町内では3地域ほど高台移転の見通しが立った。当地域は用地交渉等で未だ確定的ではない。災害公営住宅の候補地が検討されているがまだである。自力による自宅再建が若干増えていることは喜ばしいことである。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	私の住んでいる仮設でも家を建て引越していく人達もいる。車を買ひ、土地を探しています。当初から見たら駐車場には新車、中古車が多くなっています。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	県や国では高台への集団移転と言いながら、未だに場所が決まらない地区もあり、待ちきれずに自力で家を建てている人が多く見られる。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	仮設の住宅の方々も少しずつ前向きに先の事を考えて、家を建てるために土地を探しています。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	目に見える形あるものの回復と目に見えない被災者の気持ち（心）の回復の進み具合は時間が経過するにつれ差が開いてきているのではないかと感じる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	災害公営住宅も着工され、また、小中学校の移転用地についても見通しがついたことから回復を実感できるようになってきた。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	仮設住宅を出ようとする動きが見える。新築住宅があちこちに見られるようになった。生活用品、食料品の買物が普通にできてきた。学校に通う子どもたちの衣食に不自由さを感じない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	だんだんと被災者が建てた住宅が建ち、再建が進んでいるように見える。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	求人を出しても人が集まらなると嘆いている事業所が多いということは、働いている人が増えたからか、働かなくても生活が成り立っているからか。とにかく、ひとまず状況は落ち着いているように思う。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	被災して2年が過ぎようとしているが、個人ごとの差があるが一応は被災前の生活に回復したと思う。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	元気な人は自宅を自力再建している。
産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	近くの仮設住宅の就業対象者の多くは就労している。工場の再開を待っていた方々が以前の会社に再雇用されているようだ。地域の自治組織（公民館や契约会）が会費徴収を再開することになった。私の住んでいる地域の高台移転が国からまだ承認されていない。	

やや回復した	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	住宅の再建は移転用地の不足により、依然としてあまり進んでいない。ただし、民間のハウスメーカー主導によるミニ団地造成の動きが活発化。個人間の売買による土地取引において、地価上昇も見られることから注意を要する。仮設住宅入居者のメンタルケアが必要。あくまでも「仮設」との前提に立ち、本格的な復興住宅の建設が必要。仮設の受忍限度は2～3年だと感じる。 一方、小中学校の校庭に設置されている仮設住宅により子供のストレスも心配である。こうした仮設住宅を優先的に解決する取組等、優先順位にも行政は一段の配慮が必要。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	被災者の生活に回復感を感じられない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	失業者の数も減少しているように感じます。また、正社員の求人は少なく、臨時や緊急雇用関係の求人は多いので、求職者の希望とのミスマッチが目立っています。住環境については、復興住宅の建設は始まっていますが、未完成のため未だ多くの人が仮設住宅等に住んでいるのが現状です。また、浸水地域以外の土地が高騰しており、新たに土地を見つけることも困難な状態です。正月等で帰省しても、以前のような自宅がない人達は、帰ってきてもゆっくり家族と一緒に過ごせず、苦痛を感じているようです。復興ビル等も建設完了で働く人達（出張作業員）の住居も多く確保できたことは復興へと前進したところだと思っています。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	自分の知り合い等に限れば、被災前の状況に戻りつつあるのかなど。しかし、仮設に住む人たちの状況はわからない。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	三ヶ月前とあまり変化が見られない。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	自力で家の復旧が増してきた。まわりが仮設により離れていき、空いてきて寂しいものです。一刻も早く皆さんと一緒に高台移転へ移りたいと話しています。 思うようにまだ浜の仕事が進まない。農業水田の方も復旧して参りました。
	教育・福祉施設関連	20歳代	沿岸南部	周囲の方々の生活はだいぶ落ち着いてきています。職場の近くは、空き地がたくさんありましたが、新しい家が次々とできており、大きな工場も少しずつできています。以前のような街並みに戻りつつあることをとても嬉しく思います。その反面、また津波が来たらその新しい建物が同じように被害にあうのではと心配です。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	自宅を建てて仮設住宅から出る人が多くなってきている。ただ、格差があるように感じる。老人のみ世帯等はあまり変化を感じられない。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	国の復興支援により、雇用の創出についてはかなり進んでいると思いますが、景気回復は全国的な問題であり、支援事業がなくなった場合、事業所において解雇する可能性が想定されるため、国、県、民間が連携して経済の発展について考え、事業支援者の雇用が継続できるようにすることが重要と考えています。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	相変わらず被災者が従事している業種により格差が見られ、住宅の再建もごく一部しか実現していない。
教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	生活という点において、以前のような生活に戻ってきていると感じています。	

やや回復した	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	私は被災者の1人として、生活が回復したと実感するのは仮設住宅から離れることだと思っています。全く仮設住宅がなくなる現実、被災前の生活には程遠いのだと思います。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	今後の生活の見通しがつかずに仮設住宅での日常の方も多いが、自宅を修理して生活している方、新築される方も3ヶ月前より増えています。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	災害復興住宅の建設も始まり、ようやく動き始めた感じがします。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	被災の大きさが軽微であったため、しかも漁業施設に被害が限られていたこともあり、住宅被害はほとんどなかった。そのため、漁に出ることができるようになった時点で生活のペースが生まれてきたと思う。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	今後、地域の人々の生活改善が進む中で仮設商店街が希望ある未来の商店街として計画建設されていってほしい。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	仮設住宅の方々の生活が回復したかといえば、「回復していない」という答えにならざるを得ないが、仕事等を含めれば地域の活動を含めて「やや回復した」（回復に向かっている）ということになる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	近海の魚介類の販売が増えている。海岸線の道路の工事が進んでいる。
どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	10歳代	沿岸南部	仮設住宅に住んでいる現状では回復したと断言できない。ただ、津波で被害を受けた場所が土を盛り、新しい建物が日々増えてきているのは嬉しい。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	いつまで仮設に住んでいけばいいのか、という声が聞かれる。復興住宅ができて抽選で当たった人は入れるが、それ以外の人は残念。抽選入居、反対！
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	住宅の建設は少しずつ進んでいるが、まだまだ災害公営住宅の建設も始まったばかりで、住む場所は依然仮設住宅住まいが多い。仕事も復興関係でがれき処理の仕事があるようだが、他の仕事は短期間アルバイトばかりのようだ。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	前回回答と同様、主要産業である水産関係にはやや復興の兆しはある。ただし、地域全体の生活状況に限定してみれば、依然として回復の度合いは進んでいない。当地は被災の程度も他の市町村に比較すれば軽微であり、生活基盤についても、仮設住宅から定住へと方向性が定まり、25年中には終了する見込みである。一方で地域の購買力を見れば依然として従来のみである。災害による復興工事もひと段落した今、復興需要にも期待が持てないとすれば、これからは生活再建をどのように進めていくかがカギとなる。基幹産業である水産業に期待するが、見る限りでは工場等、箱モノの整備は進んでも雇用の面では進んでいないように見える。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	私自身は仕事が忙しかったり自宅再建に向け動いているので回復に向かっていますが、周りを見るとなんとも言えない感があります。

どちらとも言えない	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	時間が経つに従い回復状況に差が出ているように感じます。被災直後は同じ状況だったのに年齢が若い方、財力に余裕のある人は結果、それなりに回復の波に乗れて前に進んでいるようですが、被災直後と変わらない状況の方々も多くいます。そして、そういう方々が行政や支援体制から最も遠い場所にいるようにも思います。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	がれき撤去処理等に従事している方々は毎日毎日文字通り「汗水流して」働いている。しかし、やはり作業量が膨大である。土やコンクリート等に含まれる塩分についても難しい作業だと聞く。もう少し地域が一体となって復興へと進んでいく雰囲気が必要なのかも。そのために岩手県としてこれまで以上の県の内外に向けた情報の発信をすべきである。それにより、被災地では復興の進み具合を確認することができ、全国からも生産、流通の販路等、さまざまなアプローチが生じてくると思う。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	雪や寒さのせいか仮設の人があまり外に出ないようだ。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	被災者についてはどちらともいえないが、被災企業についてはグループ補助金の受領により順調に回復している。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	当地は県内他地区と比べ、高台集団移転や土地区画整理事業などについて進んでいるが、被災者の方々の生活は皆それぞれ様々である。サラリーマン世帯は勤務先の復活により生活の流れも戻りつつあると思われるが、自営業の方や年金暮らしの方、一人暮らしの方等は回復の度合いは計れない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	移転地は決まったが、用地買収が進まない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	被災者の生活は落ち着いていると思うが、現在も仮設住宅で生活している人が多く、回復しているとは言えない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	現在、役場では浸水した土地の買取を進めているが、当町は平地が少なく新たな住宅建設場所の確保が困難である。飲食関係の店が徐々に開店しているのは明るい話題である。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	新宅がやや進んでいる。被災地は現状ではほとんど手付かず。最近説明会がない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	震災以降、大多数の方々、特に仮設住宅で暮らしている方々は回復が進んでいるとは思えない。不自由な生活には多少慣れたようだが、忍耐の日々を強いられていると感じる。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	仮設住宅にまだ入っている人が多いため、今までどおりの生活で移転先もどうなっているのかわからない状態。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	新たに土地を購入、住宅建築される方が増えてきたように感じています。雇用促進住宅も空きが目立ってきました。住環境再建の最終目標は、仮設住宅の完全撤去かと思いますが、それまでの期間の有効利用も考えるのを感じます。特に当地は元々賃貸物件が少なく、新しく赴任してくるの方々にとっては、不便を感じるようです。被災された地元の方々の再建が第一ですが、復興のために働く方々への配慮もさらに必要な段階に来ていると感じます。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	高台移転を待たずに自力で土地を探して家を建てるという人が出てきた。災害公営住宅の家賃も世帯によっては家賃が高く、それなら小さな家を建てた方がいいという声がある。

どちらとも言えない	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	3ヶ月経っても住宅建築が可能となる場所が決まったわけでもないし、公営住宅の建築が進んでいるわけでもない。何も3ヶ月前と変わらない状況だ。また、雇用についても、職種が建築、介護が中心で年配の方が新たに就けるような職種は相変わらず少ないと感じる。皆さんの生活自体は慣れてもいるので以前より良いだろうが、「いつ自分達がゆっくと暮らせる家に住めるか」という具体的な目処は早く示してほしいと思う。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	集団移転先の造成工事が数箇所始まり、数ヶ月前と比較すれば復興の形が自分の目で確認できるようになり始めたかなと感じるが、近隣の市町村の話を見ると移転先がまだ決まらない市町村もあり複雑な気持ちです。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	自宅等の新築が始まっている。しかし、自力では難しい人達も多く、その人達にとっては辛い思いがあると感じる。小中学校の校庭を1日も早く生徒達に返してほしいと強く思います。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	これまでの調査票には漠然とした回答を行っていましたが、(近隣、職場に直接被害者、被害を受けた地区がないため) テレビ、新聞等での情報から見えることは仮設住宅に住んでいる方々が被災以前と同じ生活に戻ることができて回復したと感じたいと思いました。
あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	住環境の整備が進まないと話していた。復興住宅への入居に伴い、高齢者の方が家賃の支払いが大変なので行きたくないと言っている。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	高台移転も進んでいない。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	生活状況は変わっていない。仮設住宅の場合、人と人との関係が住めば住むほど悪くなってくるような気がする。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	もうすぐ2年になるが、先が見えず疲労感が特に増していると思う。仮設団地内の高齢者が心配。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	防集の用地取得の動きはあるようだが、目に見えてはこない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	高台移転が決まった地域もまだ家を建てられる状態になっていないため、仮設住宅にそのままいる人が多い。盛土をすることになっている地域も、基礎の残っている所が多いので、家を建てようとする気持ちにも不安が多く、考えられない人々もいる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	個々に自己再建をして仮設住宅から出ていく方が見られるが、まだ高台団地の工事が始まらず、公営住宅や自己再建には程遠いと思われる。
地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	高台移転の説明会はあったが、災害危険区域の指定は3月になるとのことで、住宅の再建等の見通しがつかない。ただ、一部の方々は自力で高台に住宅を再建し、仮設住宅から出て行ったが、大部分の方は役所の復興計画を待っている状況です。	

あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	住宅再建が大きな不安材料のようだ。災害公営住宅は建設予定数は決まったが予定地が決まらない。高齢者は地域を離れたくない。場所が決まらない。年月は流れていく。悩んでいるようだ。待てないので一般の市営住宅に入ろうか。(家賃は高い)先が長くないのだと。防集の方は地権者交渉が難しいそうだ。それに建築が始まる頃には消費税が上がり、出費が多くなりそうだと心配の種が増えたようだ。今年の寒さも厳しかった。体調を崩した人も高齢者に多かった。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	仮設住宅から5世帯が自力再建したが、防災集団移転や災害公営住宅は事業として進捗しているが、入居までは実現していない。飲食に関しては回復している。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	個別意向調査の結果が出て、今後の復興スケジュールがより具体的になってきているので回復に期待が持てるようになった。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	生活の状況は3ヶ月前と変わっていません。町による将来の生活設計について、個別面談が行われましたが、仮設住宅から高台移転か公営住宅か希望は取りましたが、具体的な説明がなく、早急な進展を願っています。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	被災後のお正月は間に合わせの必死な生活でしたので大概の方はお正月はしませんでした。今年のお正月は準備のため、スーパーは大変混んでおりました。『真似事だけ』と多くの方の声、今までと違う簡素なものだったにしろ2年目になる仮設での久々のお正月気分を味わった事と思います。最近では談話室、公民館等でイベント等があれば誘い合っけて出掛け楽しんで帰ってきます。寄り集まった方々21棟の団地ですが、今では心を開き、新たな隣組が出来上がりました。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	被災していない地域では、これまでのような生活が可能ですが、被災者に関しては、仮設住宅がある以上回復しているとは言いがたいと思います。被災者の中でも、経済面での差が大きいため経済的に厳しい被災者の救済が第一に望まれるところです。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	復興住宅の建設の話を読んだりするので、少しずつ前進しているように思う。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	未だに仮設住宅に住んでいる人が多くいること。新しく住宅は建っているが全体(仮設にいる人)の数%くらいであること。がれきは少ないけど、周りには何も無いから。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	行政の計画等はいろいろ聞くが、現場は全然手がつけられない。最近では3年後、5年後に移転の話も先行き不透明で不安になる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	農地の復旧が全く進んでいない。住宅移転が決まらない。仮設期限に不安を感じ焦りが見える。住宅建築(再建)に関する助成金(支援金)の期間延長を求める声が多いが、高台移転の目処が立たず諦めている人が増えた。
産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	高台移転の計画案が決まりつつある。一方、具体的に着工して形になってきた場所はごく一部に限られていて個人の集団移転ではまだまだ先の目途が立っていないように思う。せっかく高台を見つけても遺跡だったりして工事がストップするケースが多くあると聞く度に「津波から逃れた先祖たちはそこが安全だから生活の地にしていただけだから、そこが安全なのである」なのに、なぜストップするのか。	

あまり回復していない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	被災者も自立に向かわなければならないのは当然と思う。そのために生活支援や税等の軽減がなされてきているが、そこがスムーズに移行していない面があると思う。原因は2つ。収入面で相変わらず困窮している世帯があること。自立する意欲が持てず享樂的な生活で時間を費やしている被災者がいること。難しい問題ですが、結果としてあまり回復していない。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	仮設住宅に住んでいる方々は元の地域に戻りたいと希望している人が多い。復興住宅ができて地域を優先に考えているようです。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	他の被災地と比べれば進んでいると思いますが、住環境、雇用とも回復しているとは思えません。早く高台移転に関わる問題を解決し、定住地を決めてあげるべきだし（年齢的に諦めている人もいる）雇用にしても、復旧雇用だけでなく、正社員として長く勤められる企業等の誘致もどんどん進めるべき。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	新しく住宅を準備できた人の数は少しずつではあるが増えてきた。しかし、まだ多くの被災者が仮設で暮らしている。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	復興計画が示され、移転地等の案はあるが、仮設住宅に住んでいる人が減ることがない。実際に復興住宅が進んだ時、回復したと実感できる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	移転先も決まり、話が進むにつれて移転する戸数が当初よりもかなり減ったと聞きました。あまりにも条件、しぼりが厳しいと思う。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	2年も経とうとしているのに、ほとんど変わっていない。
回復していない	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	市街地の被災した民家（個人事業所含む）が撤去は終了しているが、現在公共物の撤去が始まったばかりで、これから被災地の嵩上げの事業が、その後の計画で街づくりのインフラがこれから何年掛かるのかまだ先が見えない。よって、各事業所の営業が開始されておらず、就業先が全く見えない。就労者の県外流出が心配される。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	被災した所に進捗が見られないと思う。同じ市内でも地域によつての復興の進み具合に差があるように感じる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	仮設の飲食店やホテルが建設されてきてはいるが、住居環境は土地収用のこともあり、未だ進んでいない様子である。行政の対応に待ちきれず個人にて自宅の再建をする方々が増えている。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	町の都市計画は発表されたものの、あくまでもまだ予定での発表なのでまだまだ復興には程遠く感じます。家の再建までとなると何年かかるか気持ちだけが焦る毎日です。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	仮設住宅に住んでいる方々は今後の住居や生活についてまだ決められず、不安を感じている。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	仮設住宅に住まう家庭でのトラブル。子どもたちは表面上元気に通ってきてはいるが、心のケアに気を遣う日々は続きます。特設クラブの土曜日練習。集合の9：00よりずっと早く学校に来る子がいる。「親が働きに行くから早く家から出てこなくちゃいけないの」余裕のない家庭の状況です。高台移転のための造成作業も雪が降ったら止まってしまいました。

回復していない	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	住宅が少しずつではあるが、建築されてきているものの、市の復興住宅がまだ完成していないから。がれきが少しずつではあるが少なくなってきたから。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	ようやく高台移転用地の造成工事が着工したのでやや進んでいるように思いました。

II 地域経済の回復に関する実感

地域経済の回復度及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載（理由）
回復した	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	鮭の不漁により水産関係は厳しい面もあるが、地域の基幹産業である建設業の好調振りが顕著で、付随して宿泊や飲食等のサービス業にも波及してきている。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	集団移転の工事が始まり、今年11月末に土地ができることの事。また、自力再建する方も出てきて新しい住宅も何軒か出てきている状況である。今、時期はわかめの作業（間引き）をしていて、浜の活気がある。三陸鉄道の鉄橋等の工事も盛んに進んでいます。
やや回復した	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	仮設店舗の商店街は頑張っていると思う。補助金が出ていることも要因の一つと思うが、今後も支援を願いたい。今後は大型店の出店等の話もあり期待はあるものの、その反面、商店街はダメージがあるのではないかと思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	養殖を諦める人もいるので、今後、後継者の育成が課題だと思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	漁業のわかめ、アワビ等、やや回復したように感じる。村のホテルも昨年再び営業を始めて地域経済に貢献しているように感じる。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	建物や設備の復旧は進んでいる。しかし、求人をかけても人は集まらず、県外からの応募はあるが住む所がなく応えられない。住む所の確保と流動人口の拡大を早急に考えないと2、3年後には地域の経済が破綻すると思う。水産業では手厚い保護のもと、過剰な船舶等の投資が行われている。後継者不足の問題は棚上げされており、税金の使い道としていかなものかと思う。地域経済の復興には、地域の特色を活かしたまちづくりが必要で、天下りのコンサルタントに頼ってはいけなない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	水産加工会社は工場、冷蔵庫を復旧し、操業している。養殖漁業も舟が配備され、再開し始めた。ただ、水揚げは被災前にはまだ回復していない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	水産業（養殖漁業施設）の復旧は進んだが、貝類養殖は生産まで2～3年掛かるので、まだ本格的生産はされていない。また、漁港の整備がかなり遅れており、よって、各養殖漁業の作業所の建設もされていない。また、小舟の納品はある程度納入されたが、養殖船（3～5t）クラスの納入が進んでおらず、養殖作業に支障をきたしている。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	どちらかといえば進んでいると思います。中小機構の支援策や各種支援策のお陰だと思います。

やや回復した	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	新漁協の誕生により、漁業関連の本格的稼働により、地域経済の活性化が見えてきている感じがします。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	水産業並びに関連加工業も動き出し、また、水産加工業の新規参入もあり、少しずつではあるが回復の兆しが見えてきたと思います。さらに3.11以降御支援いただいた全国の皆様から海産物の問い合わせや注文も増えてきているように思われます。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	街に出て行くと軒並み再生して先月まで更地だった所に家を直してめまぐるしく復興しています。まごまごしてられない気になります。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設商店街の建設が進み、大型店舗の建設は町に活気を呼び戻しつつある。漁港関係にあつては、海岸道路の嵩上げ工事が施工されてきた。水産養殖業も回復の途にある。水産加工業も復興回復に努力している。しかし、水産養殖や漁業にあつては、恒常的な高齢化と後継者不足が巨大震災後の離職者により後継者不足が大きな課題となっている。水産加工業施設が回復してきたが、雇用創出事業でのNPO法人と賃金格差が大きく、求人に大きな影響があった。こうした中で巨額の国庫補助資金7億9千万円の放漫経営、年度途中の予算使いきりは大きな問題であり、全国に恥をさらけ出すことになった。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	津波浸水した水田は、大きく区画整理され、道路も広く工事されているようなので、将来的にとっても希望が持てるように思う。良い事業だ。鮭孵化場の建設もだいぶ形が見えてきた。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	養殖施設は被災前と同じく回復したが、岸壁等はまだまだ。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	何か新しい特産品や目玉を作ろうと活気が出てきているように感じる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	新しい店舗の進出予定もあり、震災前と変わるのでは、という期待が持てそう。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	漁船、養殖施設が復旧してきた。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	地域ごとに差がある。やや回復したと思ったらその先が前に進んでいない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	水田（区画整理事業）が4月から着工予定。道路拡張事業分野で境界立会い等を終了した。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	水産の一部復旧が見え、浜に活力が出てきた。他地区よりの建設作業員の常駐により宿泊業と店に関しては活気が出ている。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	水産加工業に関しては、だいぶ工場の再建が目立っているが、従業員不足の状況が未だ続いています。そのため、工場を十分に活用できないようです。人手不足は水産加工業のみならず建設業、警備業、介護福祉関係等も深刻な問題として抱えているところです。震災以前の取引先のお客様との再会が少なくなり、売上げが減少し、回復まで時間がかかる状況の企業があります。漁業関係では、養殖等がまだ十分な収穫量を得ておらず、魚市場の充実した設備の増設等も課題であると思います。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	震災前に事業を行っていた同級生の多くが再開するに至っている。

やや回復した	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	中小機構による仮設店舗工事が進行中で、ようやく動き始めた感が強い。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	工場再建が多く、人手不足にもなっている。商店では仮設店舗の場所により、売上げが減少しているお店もある。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	求人数も多く、雇用状況は改善されたように感じる。反面、企業は仕事を請けても人手が足りなくて困っていると聞く。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	私たちの町では、主に漁業面での被害が見られた地域ですが、施設の回復等が見られ、以前よりは回復してきている感があります。しかしながら、大きな損失を受けてから二年目に過ぎないため、支援は継続していく必要があると思います。また、農林水産業のみならず、港側の小さな会社・工場も大きな被害を受け、中には仕事をやめたところもあります。そのような方への支援も必要だったのではないかと思います。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	沿岸南部に比べ比較的被災が少なかったせい、復興が他に比べ早いような気がします。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	水産業については、ハード事業の支援により建物及び設備が充実して、今後は回復の進展が見込まれるが、農林業については設備の被災がなかったにもかかわらず放射能問題による風評被害が未だ消えていないのが現状である。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	着々と工事が進んでいる。震災前よりかなり仕事は増えたかも。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	当初から思い出すと回復したと感じます。新たに新規という形はなかなか見受けられませんが、場所を変えての再出資している企業を見て努力を感じます。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	田畑へ土を入れる作業等が進んでいる。また農作業はこれからという準備であると思うが、少しずつ回復していると感じます。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	事業を再開している企業、漁業を再開している漁師が多く見られるが、ここ3ヶ月という期間内に目立った回復が見られるわけではない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	前回の調査から特に変化は感じません。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	商業に関しては賑わいを取り戻しているように感じる。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	仮設店舗から新しく店舗を出されている方々もいるので少しずつ進み始めているのかな。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	商店、企業も新しく建っている所が出てきた。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	縦断バイパス道路の建設もどんどん進み、ほぼ完成間近となっている。防潮堤の修復も進んでおり、建設関係の仕事に活気を感じている。また、漁業関係も回復してきているが、鮭は不漁だったようである。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	被災した工場の操業が始まっている。ホテルや旅館に宿泊する客が多い。
教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	水産加工物等の生産は、確実に以前に近づきつつあるように感じる。湾にいかだが浮かぶようになってきた。	

どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	10歳代	沿岸南部	被災地域を応援ということではあるが、ある意味で今までそこまで有名でなかった沿岸地域が観光という形の応援で名所になり、経済の活性につながっていると思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	仕事がなかなかなく、収入がない人もいると思う。被災者が働きやすい環境を作るべきだと思う。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	自分の周囲での地域経済の回復具合はあまり感じる機会がないが、問題になったNPO法人の事件等を考えると目に見えることばかりで判断することはできないと感じた。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	浜はわかめの収穫が始まり、以前より賑わいがあると思う。仮設店舗、工場等できてはいるが、立地条件が悪いため客が集まらないと思う。被害のない中心部だけが賑わい、以前より差が大きく感じる。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	漁業関連の災害復旧工事の本格稼働によって、地域経済に回復の兆しはあるが、住民の購買力にいま一步力がないため、全体の底上げとまでは至っていない。災害による復興工事もひと段落した今、復興需要にも期待が持てないとすれば、これからの生活再建をどのように進めていくかがカギとなる。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	被災前に比べてればまだまだですが、少しずつ仮設店ができてきたりホテル等も建築されたり、大手のスーパー、ホームセンター等もできる予定ですが、それらは被災のなかった場所に建てられるので、町の中心部は仮設の物ばかりであり回復とは言えない。仮設店に来るお客も少なく、1日の売上げも昨年よりかなり落ち込んでいると聞いています。食品店はよいと思いますが、衣料品は少ないようです。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	災害緊急雇用事業のお陰でこの経済は潤っているように見えるが、この事業を除いた場合、地域経済は落ち込み、住宅は生活が大変になる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	土建業、建設業関係の方々は大変多忙であり、また、それに伴う臨時に雇用されている方も多少の恩恵はあるようですが、一方地元の方、特に事業者とはかなりの格差が出てきたと思う。資金難、健康面等から廃業した業種も数事務所あります。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	大きな事業所等ない被災地なので、海に出る体制は徐々に整いつつありますが、港等の整備は相当時間を要する速度で進んでいる。ただ、津波後、海を離れた漁業者が再び漁業者として生活してくれるだろうか？人の少なくなった海岸部にいて淋しい海になったと実感する。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	仮設店舗ができたが、お客様の流れが回復していないので店の活気が戻っていない（仮設店舗と仮設住宅が離れすぎているため）。
地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	漁業では定置網漁業が3つが回復し、3つが再建を諦めた。養殖は昨年からわかめの生産が回復したが、他は出荷までは時間がかかりそうだ。漁船漁業はイカ釣り、タコ漁、カニ漁も始まっているが不漁の状況。アワビ漁も組合員の1/3程度しか出漁しなかった。浸水地域の農業は回復はなし。	

どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設店舗、仮設事務所はでき、経済の復興は感じられますが、町の基幹産業である漁業、水産加工業の回復はまだ時間がかかります。活気あるまちづくりのため、もっと積極的な取組を見せてほしいと感じます。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	被災後一番先に立ち上がったのが漁師さんです。漁師さん達は元気で一生懸命やってきました。それが報われ今は養殖も順調にきています。今、店先に地物産海産物が出回っております。私どもと一緒に仮設の漁師さんは山手の方へ新築して2月末に引越したとの事。仮設入居者も60歳代以上が多く、「このまま仮設では死にたくない」と皆が言っており、私も同感です。自分の畳の上で死にたいと思います。持ち家を誰もが望んでおりますが、資金面で大きな壁が立ち塞がっており、頭を悩ませています。公営住宅には入りたくない。我が儘でしょうか。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	漁協に勤めているのでわかめや昆布の注文をさばくのには忙しくはしていますが、震災前ほどの忙しさではないような気がします。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	建設関連は好調であるが、それ以外の業種については、震災前から低迷しており、回復には程遠い状況と感じている。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	商店等を見ても、街中に住宅がないため客足が多くない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	被災前の経済も芳しくなく、水産業や農業の人たちはあまり豊かではなかったため、現在の回復度はどちらともいえないのではないかと。商業スペースは盛土をしてから整備される計画のようだが、なかなか進まない。町民は休日に自家用車で内陸部に出かけ、買物をしている。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	建設業等一部の産業は活況にあるが、個別の商店街等の復興はまだまだであり、(回復していない)地域経済というマクロ的な見方はできない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	仮設商店街は復興支援の売り上げが目に見えて落ち込んでおり、特需は終結した。土地区画整理事業の進捗スピードが遅ければ、小売業者の再建は難しくなる。大型量販店の進出計画に不安をつのらせる業者も多い。建設業、水産加工業、介護事業者の人手不足が深刻で復興の進捗に影響が出かねない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	水産加工業の多くは補助金の活用により再生したところが多いが、人手不足等により従来のように回復しているところは少ない。その他の事業所は仮設店舗のままのところも多く、復興はこれからである。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	水産物も「地物の生もの」が一部店に並ぶようになってきたが、まだ小さめで、もう少しできれば養成してから水揚げしたいのだろうと思うと、中長期的なサイクルがまだまだ復旧していないのだろうと思われる。被災農地においても、復旧工事は一部で進んでいるが、広域の水利等、インフラの共同管理活動等、共同活動が残っている人だけで実行するのが負担が大きく、今後の懸念材料である。しかし、今は中長期的な懸念より目の前の取り組みで精一杯である。

どちらとも言えない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	店舗を再建し、商売を始めている店が多くなってきている。しかし、利用する住民は決して多くない。経済の活性化を支援する行政の強力な後押しが必要だと思う。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	港の復旧工事も進み、漁業についてはまだ本格的な回復とは言えないが、ある程度の回復を感じる。街の中の商店等は居酒屋（飲食店）の出店が多いが、復興工事関係者が主な客のようで地元客が通っているわけではなさそうだ。工事が落ち着いた時のことを思うと少し怖い気もする。また、街の中ではアパート建設が目立っている。ただ、これも公営住宅が建設されたりした後のことを考えると入居する人がそれほど多くいるのかと不安を感じる。そのため、経済の回復というどちらとも言えないと思う。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	震災から2年が経とうとしているせいか、以前は土日にボランティアの方や被災地を訪れようとしている方々がいて、仮設商店街でもある程度の賑わいがあったが、今はその数は減ってしまい、土日に開催している市などはお客様が少なく立ち行かないともらしている。地域の経済で職種によって格差が出始めてきている。小売業の方々は以前よりも厳しくなっていると思う。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	ホテルがリニューアルオープンし、観光客や復興関係の宿泊客も受け入れ可能となり、活気が見られてきたと感じるが、一部では復興支援による就労でNPO法人の施設で関西方面の業者によるルーア作成の注文が途絶え、年末から職員が自宅待機になっている話も聞こえてきている。農林水産業に関しても、水産業は秋鮭の不漁、農林関係もシイタケの価格低迷等、建設・サービス関係以外の業種はまだ厳しい状況と感じます。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	商店街にはあまり歩いている人も見られない。仮設住宅から離れていることもあり、高齢者の方々は移動販売を利用している人もいる。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	大型のスーパーや店舗が次々と開店していて、利便性はよくなっていると思われるが、被災者の利用頻度はどの程度なのか？
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	自分の家を建てて生活できることと考えるとどちらとも言えないと回答しかできない。そのために経済的援助も行政、民間が利益を考えずに応援することができないでしょうか。寄付金の活用も有効だと思います。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	水産業の回復は地域経済の中では比較的進んでいるように感じる。地元産の海産物を買ったり、いただいたりすることができてきている。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	地区の状態はあまり変化は見られない。ただ、漁業に関しては、進展が見られるのではないかと。
あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	外から来る人達が商店街で買物をしていくように感じる。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	経済が回復している実感が無い。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	雇用先という点では最近進展が見られない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	今は、仮設店舗で飲食店を営っていますが、この先の見直しは立たない状態です。仮設を出て、新しく店を作る場所も資金も計画を立てることもできません。他の40数件も同じようなことを話しています。

あまり回復していない	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	仮設の商店を開いている方々は、今後商売をどう展開していくか、不安を感じている。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	消費者とすれば、買物バスやバス路線の確立等、日常生活に必要なものの購入にはあまり不自由しない。今後の経済の発展には、生産者支援が急務。これまでもさまざまな取組がなされているが、相談等が気軽にできる体制も可能な限り整えていく必要があると思う。首長と生産者との懇談もたびたび行われているようだが、いろいろな方の話を聞くと、県としても生産者あるいは事業者のニーズを把握するように努めるべきだと思う。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	グループ補助金認定先が比較的少なく、本格的な事業再開に至っていない企業が依然多い。銀行においても設備投資等の前向きな資金需要が乏しい。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	最初は国、県の支援があるというので、船、漁具の購入を始めたが、制度が難しい。漁師は担保がなく借り入れもできない。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	船も100%復旧して、ウニ、アワビ漁もできました。浜の漁にみんなで作業できた事大変素晴らしかったです。価格によりよかったです、気持ちが元気なようでした。皆さん元気にできるお仕事しているようです。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	被災前の経済に戻るまでは後少なくとも数年かかると思います。3ヶ月とか短期の時間で考えるというより、数年で考えなければならないと思います。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	工事関係、がれき処理の関係者は慌しく働いているようですが、それ以外はさっぱりです。冬になり、支援イベントも減る中、とても淋しいところになってしまいました。マスコミに取り上げられる南部に比べ、沿岸北部はとても静かな気がします。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	補助はあるものの、自己資金も多額に上り、小型船を諦めた人達がいる。漁業を諦め、陸の仕事に就いた人や、がれき処理で生計を立てている人達もいる。漁業の再生は以前のような状態には戻らず、規模は縮小するのではないかと。
回復していない	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	仮設店舗は営業しているが、仮設店舗の場所の関係でお客さんのいる店、いない店がある。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	まだ計画を練っている段階で何も目に見えての復興までは行っていない。がれきもまだまだ残っている。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	前回とあまり変わらない。風評被害の影響で魚価が上がらないと漁民は嘆いていた。海底のがれきで網が破れる。(刺網漁)護岸工事も進みにくい。震災前のスピードから見れば足踏みをしているようだ。農作物も放射能の被害で元気がないようだ。きのこはダメ、山菜も。水産工場の活動も鈍いようだ。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	水産業関連の工場が再開始めてきており、それに伴い従業員の確保による雇用が生まれてきている。建設業中心に業況は盛んである。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	生活の収入はほとんどがれき関連が多く、本当の意味での産業としての安定した収入でないように思うから。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	3ヶ月間全くというくらい変わってとされます。働く場所がない限り、他の町に移転するのではないのでしょうか。雇用する町にしてほしいと思います。

回復していない	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	商店を営んでいる人たちがまだ仮設での営業をしているから。旧市街地の道路整備、土地整備が完成していないから。出店したいと思っている人たちが本格的な出店をできないでいるから。
わからない	教育・福祉施設関連	20歳代	沿岸南部	3ヶ月前と比べると私の近くの地域は変わらないように思います。ですが、ニュースやTV等で見るといろいろな工夫をして農林水産業は回復につなげる努力をしているんだと考えさせられます。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	周囲、知人の方々の就労、収入の状況を見ると安定していると感じますが、被災された方全体を考えると「わからない」となります。

Ⅲ 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

災害に強い安全なまちづくり及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載（理由）
やや達成した	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	復興道路のトンネルがつながり、今後のトンネル完成に期待が望まれる。沿岸地区の整備も徐々に形が出てきているように感じる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	がれきは前と比べて減ってきているが、防潮堤の整備等は未だ進んでいない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	防潮堤の計画や高台移転地域を通る新設道路の計画、概要が地域住民に示されるようになってきた。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤の復興工事の仕事に携わっていますが、湾の防潮堤は随分と復興していると思います。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	国の機関である国家石油備蓄の復興工事は急ピッチに進められています。県、市よりもやはり目に見えて進んでいるように思います。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	今は前向きな姿勢で経済回復に努めていますが、行政及び地元消防団が主体となり、3.11の事件を風化させないよう今年度もシンポジウムの開催を予定しており、大変良いと思っています。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	防潮堤等の修繕は進んでいるように見えますが、未だ浸水区域に立ち入ると恐怖感を感じます。どこにいても何時でも誰もが確実に避難できる方策、避難訓練を積み重ねる必要があります。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	避難経路の確認、災害時の伝達等、行政の方針が以前より明確になってきた。なにより住民の意識が高まっている。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	避難方策が充実しつつある。
どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	10歳代	沿岸南部	何十年単位の活動になると思うので、まだまだこれからだと思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	ようやく堤防の工事が始まったが、津波注意報が出るたびに怖い思いをしている。防潮堤だけでも早く完成するようになればと思う。

どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	まだがれきの処理をしていて防潮堤も無残なまま2年が経とうとしているのに、また津波が来たらまた町が飲み込まれてしまう。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	まだ堤防等の嵩上げの工事に入っていない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	住民生活に欠かせない生活道路は震災時のままほとんど手がつけられていない。達成感については、残念だがほとんどない。防災計画は策定されているようだが、どの程度進んでいるかその状況がわからない。介護弱者を収容する施設についても、地域全体としてどう連携すればよいのか、このままただじっとしておれというのか。方向性が示されないため不安である。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	家の近くの漁協市場の工事も始まり防波堤の一部も修理の準備が始まっているようです。でも、ガードレールが壊れたままだったり、満潮になると浸水したりと先日の津波注意報が出ると皆不安です。防波堤も家もなくさえぎられるものがなく、前回より被災が大きくなるかと不安になります。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	漁港海岸周辺は海岸道路嵩上げ工事がかなり進んだ。しかし、全体的には緒についたばかり。津波被災海沿い地区は平地であり無防備。再度大津波襲来の際には、平地無防備は更なる奥地への被害拡大が予測される。早急な復興が望まれる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	これからだと思います。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	まだまだ手探りで進んでいる状況ではないかと思っています。あの津波を目の当たりにしたためか、どんな策が打ち出されても信用して進めてほしいと思えないのかもしれない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	防潮堤を始めとした防災設備の整備や建設には長期間要することから現時点で判断はできない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	現在、防潮堤の修復工事の槌音が毎日朝から響いており、工事は進捗していると思われるが、目に見える範囲での変化はまだないことから特に実感はない。当地区では、他地区に比べ、土地区画整理事業や災害住宅の高台移転事業等が進んでおり、より具体化していると感じる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	がれき撤去作業や大型建物等の解体は進んでいるようだが、安全面での対応、防波堤等の整備が進んでいるのかどうか目に見えないので不安である。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	行政の具体的な防災の取組が提示されていきいているのは良いこと。しかし、住民の意識は沿岸被災地は高いが、内陸部は低い。全体の意識高揚のための取り組みを考えていく必要がある。行政だけでなく地域住民をいかに巻き込んでいくか。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	指針は示されても現場は全く動いていない。堤防、住宅移転、公営住宅の建設、全く目に見えない。
教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	海岸防波堤は進んでいるが、まだ「守られている」という状況にはなっていない。今の状態では怖いです。	

どちらとも言えない	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	具体的に堤防工事等が進んでいるが、まだ完成前ということもあるので「達成」という感じはしないが、たびたび防災訓練を行ったりしているの、住民一人ひとりお防災意識の高まりは感じる。災害に強いまちづくりについては、まだ計画が決定していないところもあるようだが、堤防工事、防潮堤工事も進んでいるようなので、「やや進んでいる」と感じる。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	津波警報が出ると未だに道が混雑してしまう状況。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	近くの工事が本格的に行われています。日々まちづくりは前に向かっていく感じがします。ただ、最近も津波注意報が出されました。3.11の津波より規模は小さく、3.11前には全く気にしなかった注意報に今回は過敏に反応してしまったような感じがします。被災した者としては仕方がないと感じたり、冷静にならなければと言いつけさせたり、心情的に迷うことが多いです。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	三陸鉄道北リアス線の工事が数箇所始まり、復興のギアが切り替えられ加速し始めた感じがする。また、国道の新ルートも用地買収も進んできている話を聞くと、災害時に対応できる安心・安全な道路が進んできたかなと感じる。ただし、新政権になり、公共工事が全国に進むと、今でも建設関係の職員の不足から入札できない工事等もある中で、現在全国から復興に来ての方々が地元に戻ることになると、復興のスピードが減速するのではと心配している。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	急いでやればよいというものでもないのですが、嵩上げした所は馴染むまで数年を要すると聞きます。であれば、なおさら早く着工するべきでは。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	津波注意報でどこまですればよいのかとても混乱した。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤の工事が進んでいるように見えるが、実際ははっきりとは分らない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	移転先等の決定が市町村により遅れているところもあり、移転先が決まらなと住宅を建てることもできないと思う。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	被災の建物（病院や駅舎等）の解体がやっとな行われているが、災害に強い安全なまちづくりの進み具合は・・・と考えると、どちらとも言えない。堤防等の整備もまだ行われていないので、最近続いている地震を考えると毎日の通勤が不安である。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	学校前の街灯は変化がない。（これから昼が長くなるので若干よくなるが）歩道は工事中。バス通学は大変さ（不便さ）を感じる。鉄道の復旧を望む。
あまり達成していない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	防潮堤の整備には何年もかかると思うので仕方ないと思いますが、もし仮にまたある程度大きな津波が来た場合はどのように対応するのでしょうか。たぶん防ぐ防潮堤がないので水をかぶることはなるとは思いますが、仕事上絶対に通らなくてはならない浸水域もあり、判断に迷うと思います。ハード（堤）が間に合わないのならソフトで注意報や警報が出たら通行止めにするエリアを明確にし、周知した方が車移動もスムーズに行われると思うので、もし津波が来たらこのようにすると対応方法をお知らせしてほしいです。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	防潮堤ができる様子がない。

あまり達成していない	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	トラックは走っているが、工事の達成は遠いと感じる。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	橋の強化工事や道路の修復工事等は気になっている箇所は始まっているが、堤防については危険な場所がまだ手つかずのように残っている。未だに高潮で浸水する場所もある。住宅地になる場所ではないが、また津波が来たら津波でなくても何かの災害にもろい場所となってしまっている。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	防潮堤の工事もあり、また、高台の造成工事もあり、着々と復興は進みつつありますが、完成まで時間がかかることで、まだまだ安全なまちづくりは先の事という実感です。旧市街地の区画整理事業も同様で、住居を決めかねている方々がたくさんおられます。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	防潮堤の高さは被災地住民と行政との協議で決まったようである。現在復興に向けた工事等はいつの事かと思う状態。手付かずのように見える。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	国道の復旧工事は行われているが、堤防の工事は進んでいない。堤防の水門も壊れたままです。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	安全なまちづくりの取組については、設計工事等が始まったばかりで、住民が期待する程進んでいません。早く環境整備をし、安心して住める状態にしてほしい。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	被害にあった道路は未だ半分えぐれた状態にある。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	防潮堤の工事が進んでいない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	“まちづくり”という観点では実感はそれほどない。もう少しスピードアップして、安全を確保して頂きたい。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	岸壁の工事はしているがコンクリートがないためなかなか進まない。防波堤もこれからだ。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	この3ヶ月間で2度津波注意報が発令された。消防団の活動や避難状況（避難路、学校や職場等の対応）について検証し、今後活かす必要がある。避難時の物資状況には不安がある。特に食料、毛布、燃料等。現在懸命に作業が進んでいるようだが、被災時のような孤立状態にならないように高台を通る道路が早く完成してほしい。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	12月の沿岸部に出された津波注意報で、職場全員で高台の避難所に逃げたが、改めて震災後の沿岸は津波に対して無防備と感じた。 1メートルの津波注意報でも、1メートル地盤沈下している地域では実質的に2メートルの津波が想定されるので、強い恐怖を感じた。防波堤、防潮堤が完成するまでの復興途上における避難経路の整備、避難場所の指定、防災訓練、防災ステップ作りが必要である。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	具体的な計画は出てきているが、実現はこれからである。
	教育・福祉施設関連	20歳代	沿岸南部	現在みなし仮設に住んでいますが、災害前の地域を訪ねてみて、何の変わりもなく、具体策も次期もはっきりせず、不安な気持ちとなってしまいます。

あまり達成していない	教育・福祉施設関連	20歳代	沿岸南部	防潮堤に関しては、全くと言っていいほど進んでいないように思えます。今でも壊れた防潮堤はそのままでの状態です。地震が来る度に不安になります。私の周辺地域では、壊れた歩道やガードレール等が完成しつつあります。歩道も大切ですが、まず第一は防潮堤なのではないかと思えます。高台移転の話も足踏み状態のままです。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	防潮堤の整備はほとんど進んでいないと思います。私自身は防潮堤の整備は、多くのお金がかかるので整備まで時間がかかると思うのです。先日、津波注意報が岩手県沿岸に発表されましたが、どのように避難すべきかの方に重点を置いた災害対策をすべきだと思います。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	道路や橋の工事をしているのは良く見かけますが、防波堤の修復はまだまだのよう感じます。避難方策については、もっと地域で力を入れて取り組んだ方が良いと思えます。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	目に見えての大きな変化はあまり感じません。何回も同じ事を書いていると思うけど、大きな変化は感じられません。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤再建の様子は全く見てとれない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	登下校時、学校にいる間の子どもの安全はほぼ学校任せのところがある。ましてや、未だに新校舎の建設、移転先が決まっていない。もっとも危険な場所に学校があるため早急な決断をしてもらいたいと考えている。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	私の前の堤防は震災直後と何も変わっていません。フェンスも倒されたままです。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	防潮堤の復旧は進んできた。11月と2月に堤防の工事説明会が行われるなど、復興に向けた動きが見えてきた。着実な進展を望みます。平成24年は復興元年・槌音の聞こえる年に・・・と言いながら集団移転地については進んでいない。私達の目にサッパリ進み具合がわからない。
達成していない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	目に見えて復興しているようには見えない。2年経っても何も変わっていない。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	やっと建設工事が始まる場所であるが、完成の時期はいつかわからないと言っている。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	工事車両は見かけるが、防潮堤等壊れたまま。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤の建設の説明が行われた。海側は岩手県、陸側は自治体という垣根があり、まちづくりに対しての整合性が図られていない。水産業が就業人口の7%を超えているこの地域では、海が重要な意味を持っている。県と自治体は安易に現状復帰という考えを捨てて、復興を目指して考えていただきたい。津波の検証は行われているのだろうか。例えば、三陸津波、チリ津波、そして今回の津波で多数の死者が出ている地域は嵩上げ、区画整理からも外されている。ワークショップや説明会を開いているが、当初の計画通りに決まる。住民の意見は全て無視されて反映されたためしがない。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤の建設に向けて、多少工事をしている様子が見える。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	災害により壊れた防潮堤や街並みは次の災害に備えての安全なまちづくりには手付かずの状態だと思います。

達成していない	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	まだ、防波堤や防潮堤が着工されていません。安全なまちづくりには程遠い状態だと思います。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	計画等の説明はあったが、未だ工事施工がなされておらず、まだまだ先の話だ。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	現在住んでいる町は、浸水区域を必ず通らないと市内中心部にいけないため、今回の津波でも孤立したため、高い所（浸水しない所）に道路がまずほしい。安心して通学等の子ども達や車椅子等のお年寄りが避難できると思う。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	危険がいっぱいです。国道等は全く標識もなく、夜間等はパニックになると思います。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	新県道のルートが発表された。復興予算の不足で津波の浸水区域に下って現行道路と接続する計画だ。なぜ防災に強い町の道路に。それでよいのか。住民だけ不思議でたまらない。住居も学校も高台に作る計画が進んでいるのに担当者の熱意が感じられない。国県市、より良いものを考えてほしい。護岸も地元の意見をもっと聞いてほしい。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤や県道の嵩上げ等の計画は終了し、測量、土地の買い上げ等へと進んでいるが、目に見えるものはできていないので、どちらともいえない段階とした。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	防波堤や高台移転等、全然進んでいない。基本計画等は自治体から提示されているので早急に、又確実に達成されるよう希望いたします。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	決壊、崩壊した河口堤防、防潮堤が修理、修復されず散在し、その周りにがれきの山並みが築かれており、住民の目には直接映りませんが、2次3次災害の恐れを禁じえません。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤の建設が進んでおらず、防災の計画を立案する段階に入れない。現在の防潮堤造りはコンクリートによる計画で、建設業者のキャパも限界がある（スピード）。防潮堤の設計のあり方も再検討の必要があると思う（森の防潮堤等）。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	安全なまちづくりの方は進んでいない。一部先行地は着工しましたが、他の先行地の着工は24年の説明会では12月末からとの事。その後25年1月上旬からとの事。議会報告会では着工は話にはない。2月中に検討との事。県の方が遅いのか自治体の方が遅いのが時間と税金の無駄。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	大きなクレーンが岸壁で動いているようです。中心部から眺めるに仮設店舗が建った以外は何も変わっておりません。個別面談に行ってきました。まだ何も始まっていません。区域内の道路整備の話も出ました。道路整備は新たなまちづくりの基礎なので、障害のない今が良く、早く線引きをし公表してほしいです。誰も反対する人はいないと思うのですが、反対すればそれだけ復興が遅れることとなります。住民もある程度の我慢をし、また協力し、復興事業の妨げにならないよう見守っていきたいです。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	壊れた防潮堤を見ているといつ整備が始まるのかと不安に思うことがあります。ただ、津波に対する意識は非常に高い気がします。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤整備等は手つかず。

達成していない	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	被災の後の建物の解体や後片付けで終わっていて、まだ安全なまちづくりは進んでいないと感じる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤にしろ、道路にしろ、いつから始まるのか、せめて町の説明がほしい。確実な情報を仮設住宅に住んでいる方々は待っています。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	道路や橋の整備が盛んに行われているが、まだまだ一部であり、片側交互通行等の不便さも感じている。海岸では、山と積まれたがれきが少しずつ減ってきている。防潮堤の役目もあったのかもしれないが、今はそれもなくなってきたので心配である。まだ防潮堤は整備されていない。しかし、避難路の案内板等が増えてきて高台への道が分りやすくなった。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	何もないからハードが遅れているので、せめてソフト面でのもっと強い指導が必要があるのにしていない。今すぐにも始めておかないと災害はすぐ来るし、これからの災害は人災になると思う。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	復興計画の青地図が出来上がったばかりでこれからが実現に向け長い道のりがあると痛感している。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	工事が始まるころ。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	形が見えてこない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	当町は平地が少なく浸水地域に市街地を形成せざるを得ないが、土盛りも始まっておらず相当の時間を要する。また、集団移転促進事業についても、現在地権者と交渉中でまちづくりまでにはまだ程遠い状況である。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	未だ企画段階で、具体的に見えてこず、実感が無い。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	未だ防潮堤等の津波対策の建築物が未完成であり、大潮の際は、浸水する地域があり、災害に対しては非常に不安な状態が続いています。また、この頃地震が多く感じられ、その都度津波の恐怖に脅かされています。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	何もかも手付かず、先日の津波注意報で避難場所は食料の用意をしていない。学校でも解除になるまで何も食べてこない。行政は何を考えているかわからない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	大きい場所は少々進んでいるようです。小さな港はほとんど進んでいない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	海岸工事は見えるが、陸はまったく進んでいない。住民周知がされていない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	高台の仮設住宅に津波警報、注意報の際、帰れば一番良いのであるが、そこに通じる尾根伝いの災害避難道を兼ねた計画道路も早く着工を急いでほしい。(低地を通らなければ帰れない仮設住宅地がほとんどである) 有事の際は、いつも路上等、屋外に長時間避難している。防災無線等、情報伝達インフラはだいぶ復旧してきているようである。が、今後、機械操作のオペレーター等、農林漁業や土木工事等も含め緊急情報が聞こえづらい環境の低地で作業している人の対策も必要であると考えます。
産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤等が進んでいないので建築の計画がまだまだ進んでいない。	

達成していない	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	ただいま荷揚げ場高上げ作業を復旧しております。まだ、漁港関連道路を歩いて臨めましたが、災害で壊れたまま途中上り坂の所です。これからわかめ作業が始まりますので、1日も早く復旧をお願いします。防潮堤、その他は部落から提言しています。その他の工事については復旧しておりません。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	防潮堤の整備がまだである。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	人々の防災意識は非常に高まってきました。しかし、まちづくりとなると何も変わってはいません。具体的な案も耳に届かないこともあり、5にしました。ただし、行政への不満があるものではありません。多額な予算を含むものであるため、簡単なものではないからです。行政は行政で動いていると思われます。それでも、現段階でのまちづくり案について住民に発信しても良いのではないかと思います。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	防潮堤も壊れたままで工事が進んでいない。都市公園事業の関係者説明会等が開かれているようだが、対象ではない人は何も知らないでいることが多い。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	道路工事は進んでいますが、それ以外は進んでいるように見えません。コンクリートがれきだけでなく、土も別の場所に運ぶのではなく、防潮堤の建設に使えばいいのと思います。もうすぐ2年が経つのにここまで変わらないと諦めの感情が強くなります。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤が完成していないから。海岸から安全な避難場所（高台）への道路の整備計画は示されたものの、建設にまだ着工していないから。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	海岸付近は依然として手つかずの所がある。

【自由意見掲載上の注意】

- ①記載内容については表現も含めて原則として原文のまま掲載しています。
（誤字、脱字は修正をしています。また、企業団体、個人等の名称は置き換えています。）
- ②自由記載については、本人の掲載の了解を取ったものだけを掲載しています。